

上り口説 (ぬぶいくどうち)

本調子

工	四	乙	四	尺	工	四	乙	四	合	尺	工	合	尺	工	合	尺	工	五	七	五	工

尺	工	五	工	尺	上	老	上	尺	工	合	尺	工	五	工	尺	四

合	尺	工	五	四	乙	合	尺	合	乙	四	上	四	工	四	乙	四

合	尺	工	合	尺	工	五	七	五	工	尺	工	五	工	尺	上	老	上

尺	工	合	尺	工	五	工	尺	四	乙	合	老	五	尺	五	七	五	工

尺	工	五	工	尺	四	合	尺	工	五	四	乙	合	尺	合	乙	四

上	四															

一、旅ぬ出立(んじたち) 観音堂(くあんぬんどー) 千手観音(しんていくあんぬん)

二、袖(すでい)に降る露押払(ちゆうしはら) ひ大道(うふんどーまつばら) 松原歩み行けば八幡崇元寺(すーぎーじ)

伏拝(ふしうが)で黄金酌取(くがにしやくとう)てい立別る

三、見栄地高缸(みーいじたかはし) 打渡(うちわた)てい袖につらねてい 諸人(むるひと)の行(ゆく)も帰るも中ぬ橋

四、沖(うち)ぬ側迄(すばまでい) 親子兄弟(うやくちようで) 連(ち)りて別ゆる旅衣(ぐるむ) 袖と袖とに露(ちゆ) 涙

五、船(ふに)ぬ纜(とうむじな) とうくどうくとう 船子(ふなく) 勇みて 真帆(まふ) 引けば風(かじ) やま とうむに午末(んまふいちじ)

六、燃る煙(ちむり)は硫黄島佐多ぬ岬に走並(はしなら) くいむん ありに見ゆるは御開門(うかいむん) 富士に見紛う櫻島